

60294

教科書文庫

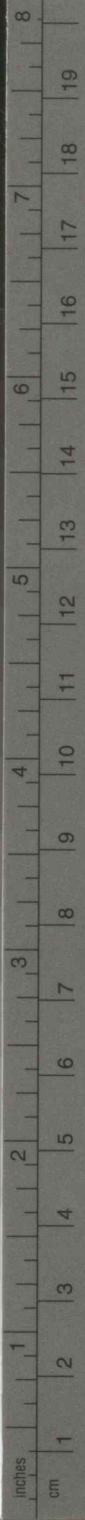
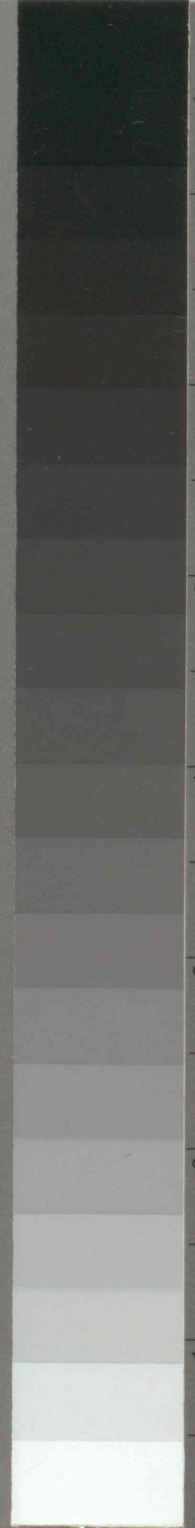
6
720
34-1950
01304 49959

Kodak Gray Scale

C Y M

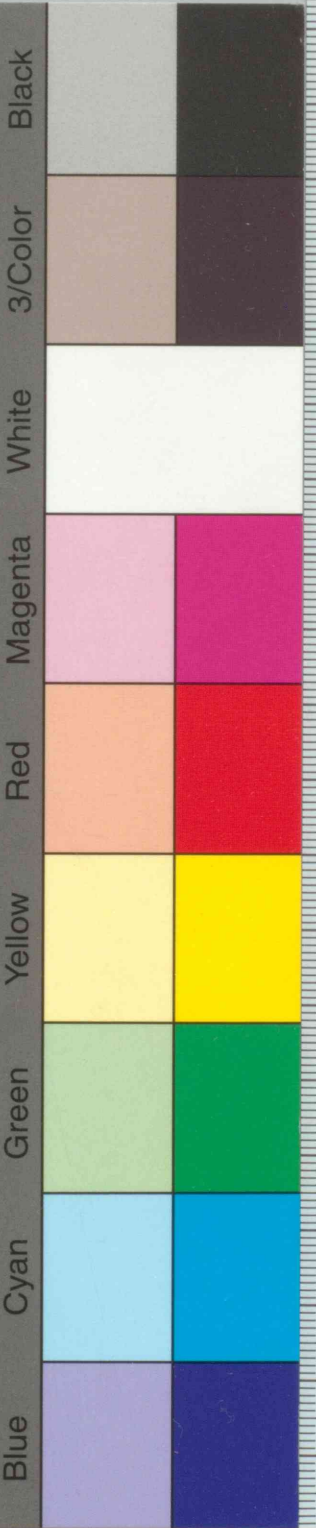
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



10 小国634
春陽

広島大学図書
0130449959

文部省検定教科書

小学 六年 書 方

教科書文庫
6
720
34-1950
0130449959



東京 春陽堂 発行

小国634
SH996

中央図書館

広島大学図書

0130449959



教科書文庫

6

720

34-1950

0130449959

昭和二十五年 月 日 文部省検定済
小学校国語科用

方 書 年 小 学 六

東京 春陽堂 発行

贈
寄

広島大学図書

0130449959



広島大学
教育部図書

まえがき

一、この本は、皆さんが、正しく、早く、美しく字を書く力をつけるためにつくったものです。

二、次のことに気をつけて練習しましょう。

1. 説明をよく読んで、目あてをはつきりさせてから書きましょう。
2. しせい、ペンの持ちかたに気をつけましょう。
3. 一度書いたら、手本の字とくらべてみてまた書きましょう。
4. 説明を読んで、自分で考え、進んでやってみましょう。

三、少しずつでも、たびたびけいこすれば、それだけ、じょうずになります。毎日つづけてけいこしましょう。

四、字は心の鏡で、字をみればその人がらがわかるといわれています。手本をみて練習し、基本になる力がついたら、自分のすきな美しさが自分の書いた字にあらわれるようにつとめましょう。

目次

一 ペン字	六 くちびるに歌をもて
二 絵日記	七 美術の秋
三 すきな書風	八 漢字の組みたて(一)
四 文献の目録	九 漢字の組みたて(二)
五 読書帳	十 図表の中の文字
六 私の事典	十一 戸外の楽しみ
七 ことわざ	十二 室内の楽しみ
八 星見の井戸	十三 年の始め
九 かげ絵	十四 日本国憲法
十 委員会の記録	十五 郷土の偉人
十一 住所録	十六 俳句と和歌
十二 じょうぶなからだ	十七 長い詩
十三 科学の進歩	十八 脚本
十四 電気の世の中	十九 卒業
十五 スポーツ精神	二十 アルバム

一 ペン字

ペン字の書きかたをくふうしよう。

一 ペン先の向き

1. ペンの先が紙の上に平らにつくようにして書いてみる。
2. ペンの先の右側を少しあげて書いてみる。
3. ペンの先の左側を少しあげて書いてみる。

二 力のいれかた

1. ペンを軽く運んで書いてみる。
2. 力を加えて書いてみる。
3. もっと力を加えて書いてみる。

三 ペンのはずみの利用

1. 一つの画を書き始めるときと、書き終るときに力を加え、その途中は力を抜いて書いてみる。
2. 横の画を書くときにはペンを軽く運び、縦の画を書くときには力を加えて書いてみる。

四 そのほかいろいろためしてみよう。どんな書きかたが一番よいか、その書きかたで五ペー
ジの文を書きましょう。

ペンは、内側を下方に向け、ペン
先が紙の上に平らにつくようにして
書く。

ペンは強く持たず、手のひらの中
は広くあけて、ペンを軽く運んで
いくことが大切である。

ペンのはずみを利用して、はやく生き
生きと書くことは、えん筆の書き
かたとちがうところである。

二 絵日記

絵日記のことはがきは、絵と調和させなければ
ならない。絵と文字と調和させるには、どうすれ
ばよいか。

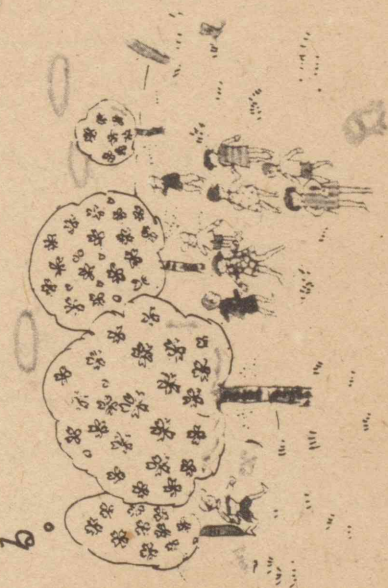
- 一、絵をかいた線と同じ感じの線で文字を書くこ
と。
- 二、絵の感じと同じように、散らして書いたり、
まとめて書くこと。
- 三、絵のない空間にしまりをつけるように文字を
書くこと。
- 四、大きい文字と、小さい文字を組み合わせて書
くこと。

絵日記をかくには、おもなできごとを一つかく
ことがあり、いくつもかくこともある。いくつも
かくとき、その一つ一つを線で区切らないで、少
しあけておくのがよい。きのうの分と、きょうの
分との境も、少しあけておくだけでよい。

四月十日 金曜日 晴

さくらあなが
ぱつと
開く。

その下で
一年生が
これそらに
遊んでいる。



三すきな書風

どんな書風がすきですか。

熱誠な共力による祖国の復興。
文化社会の建設に努める。

熱誠な共力による祖国の復興。
文化社会の建設に努める。

熱誠な共力による祖国の復興。
文化社会の建設に努める。

熱誠な共力による祖国の復興。
文化社会の建設に努める。

熱誠な共力による祖国の復興。
文化社会の建設に努める。

九ページの文を、すきな書風で書いてみよう。
よくわからなかったら、九ページの文の書風を
手本にして書く。

牧場にむれる馬。夕日には

える遠山。印象的な自然の

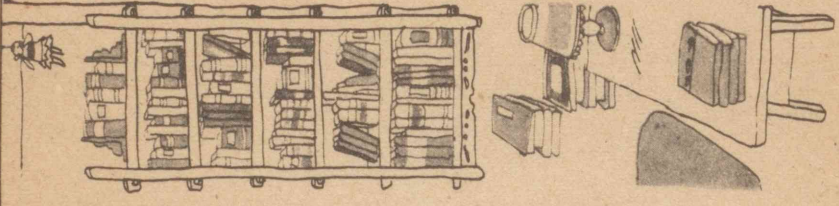
樂園。限りない平和。誠実

な研究と、がまん強い実行

と、熱誠な共力による祖国

復興。文化社会の建設。

四 文献の目録



文献の目録を作ろう。

ある主題について調査研究をしようとするとき、その主題の文献目録があると便利である。調査研究をするたびに、その主題と、それに関係のある参考書・百科事典・新聞・雑誌などの名・著者・発行所・ページ・日付などを書きのこしていきこう。

学校中の人々が作った文献目録を集めて整理しておくのと大へん便利である。

一時にりっぱなものを作ろうとしないで、まずわかっただけ書いておき、その他は、気づいた者が気づいたときに書きたしていく。

筆順

編 竹 石 川 典 六 二 八
 馬 一 三 一 三 姫 女 一 二 一

主題	アンデルセン
○ 学習大辞典 文学篇(1) 世界文学史(六三五ページ)	
○ 西洋人名辞典(七一三ページ)	岩波書店
○ 童話集	
アンデルセン童話集 赤いお馬 鈴木三重昌訳	香柏書房
同 (世界名作童話集)	浜田広介訳 子供の泉社
同 (小学生全集)	菊池寛編
アンデルセンと白鳥(少年国民世界文学叢書) 安藤一郎編	新国民社
人魚の姫	浜田広介訳 日本読書倶楽部

五 読 書 帳

- 学習の参考になると思うところを抜き書きする。
- 深く感じたところを抜き書きする。
- 本に書かれてあることがらのあらましを書く。
- 感想や、批評や、疑問に思うことを書く。

文 例 (児童作品)

番 号	書 名	著 者 名	発 行 所
18	アメリカの家族と子供	坂部清子	新日本教育文化研究所
月 日	ページ	記 録	
四月		本の中から	
二〇日	一―三五	○ 發明が、私どものすむこの世界を日ごとに せまくしているのです。	
二三日	三六―七〇	○ 私どもの精神も、この科学の発見に負けな いような大きな発展をしなければなりません。	
二五日	七一―九八	感 想 ○ アメリカの子どもたちの、一年中の生活の あらましがわかった。民主的な生活が小さい 時から、自然に経験されている。	

○ 同じ本を読んでも、読んだ人によって内容の
とらえ方がちがうし、書き方もちがう。次の
ページに文例二を示す。文例二によって書く
練習をしよう。

アメリカの家族と子供 (全九十八ページ)

著者 坂部清子

発行所 新日本教育文化研究所

一 本の中から

1 人類は、平等に生命と自由と幸福の権利をもつ。

2 人民の同意によって政治がおこなわれる。

二 批評

写真や図があった方がよくわかる。

六 私 の 事 典

○事典の作りかた

1. 学習の参考になることがらをとらえる。
2. その説明をカードに書く。
3. カードを順よくそろえる。
4. 索引をつける。

○事典の種類

1. あらゆることがらを集めると百科事典になる。
2. 社会科のことがらを集めると社会科事典になる。
3. 理科のことがらを集めると理科事典になる。
4. その他いろいろある。

○順よくそろえる方法

1. 五十音順による。
2. いろは順による。
3. ABC順による。

○カードの作りかた

1. 丈夫な紙をえらぶ。
2. とじる穴をつくっておく。
3. 見出しの文字をわかりやすいところに書く。



地 動 説

天動説に対する説。

地球は、太陽のまわりをまわっている一つの星であるという説。

十六世紀の中ごろ、ポーランドの
コペルニクスがとなえはじめた。

①ち

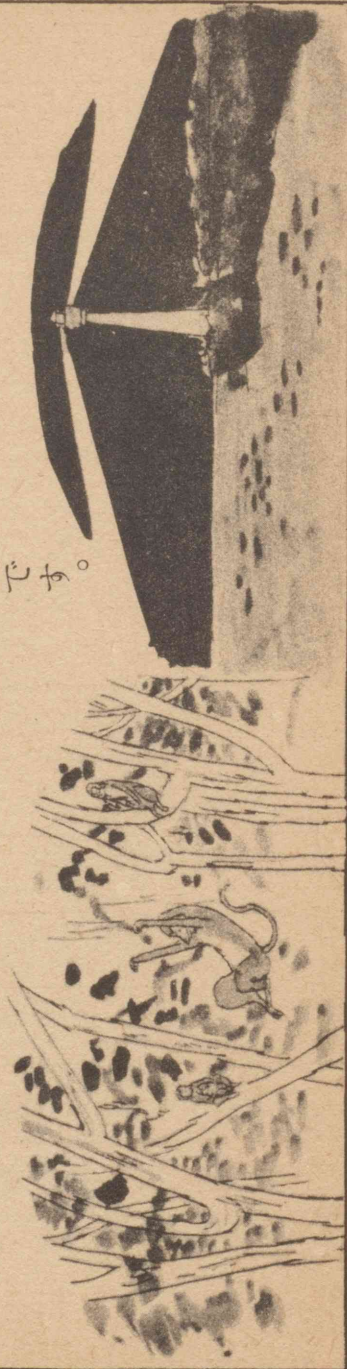
七ことわざ

なん回もなん回も、ある
 いは、なん代もなん代も
 やつてみた結果、とうと
 う一つの真理だと思われ
 たので、そのことをほか
 の人々に伝えているうちに、
 短くて調子のいい、気のきいた
 文句になったものが、ことわざです。

わたくしたちの村や町に伝え
 られていることわざを、集め
 てみましょう。そして
 そのことわざに、どん
 な真理がいい表わされ
 ているかを考えてみま
 しょう。

筆順

短 火
 燈 火
 豆 火
 豆 火



おびに短し、たすきに長し。
 かくて七くせ。
 燈台もと暗し。

ちりもつものは少くなる。
 まかぬ種はほろぬ。
 石の上にも三年。

たるもみから落ちる。
 かっぱの川流れ。
 ゆげん大敵。

八 星見の井戸

○

郷土に伝わっている伝説を調べてみましょう。

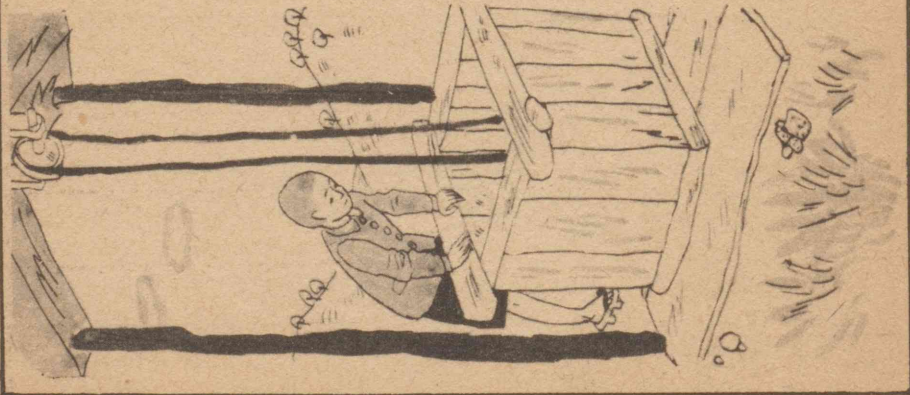
そして、次のようなことに役立てましょう。

1. 祖先の心持を知る。
2. 科学的には真実と思えなくとも、心持としての真実を知る。
3. 文集・人形劇・郷土誌の資料にする。

○

長い文を書くには、早書きができないと不便ですね。早書きをするには、どうしたらよいでしょう。

1. 行書で書く。
2. つづけ書きにする。



星見の井戸

村ごとに星見の井戸があり、美しい水がわき出し、登る星がうつて見ると、うしろな井戸だ。

ある日、いざな者が、この井戸の中へはなをいきました。すると、あなから星は見えず、うしろな井戸だ。

九 かげ絵

友だちから、本を借りて読んだとき、図書館で本を読んだとき、おもしろいところは、長い文であつても、書き写しておきたくなります。

長い文を早くきれいに書き写すには、文字を早書きする腕うでがなければなりません。また、写すくふうも必要です。

○次のかげ絵の文を、くふうして早く写しましなう。

ときには、ホールの広場がに
かげ絵のぶらさうらん、そご
人形あやがばある。ほのぼのと
ゆれ動くかげ絵は、子どもの心を
ひきつけてやまぬ。夜のけ
みも知らなげ、見えて
しまう。お気がつかず、子ども
たちは、あわてて家にもどって
行ったがる。

十 委員会の記録

六月十一日(月)	書記 小林 憲子
議長 中里 達三	副議長 荒川 順子
議事 六月の自治目標について	
決定事項	
一、六月の目標を「きまりをまもろう」とすること。	
二、学級の実行目標は学校自治会で決定する。	
三、学校壁新聞 六月十八日(月) 発行	
ポスター(六の二委員)	
原こうしめきり 二十二日(金)	
へん集 二十三日(土) 午後一時(六の二、五の二委員)	

これは児童が書いた委員会の記録である。

1. 正しい文字で書かれているか。
2. 美しい文字で書かれているか。
3. わかりよく書かれているか。
4. まごころをこめて書かれているか。
5. はや書きに適しているか。

よいところはとりいれ、悪いところは直していこう。

自治会。選挙。委員。議長。

副議長。書記。決定事項。

実行の目標。学校壁新聞。

自治の精神にみちた学校生活。

正しく、早く、美しく書く。

まごころこめてわかりよく。

十一 住所録

夏休みが近づいた。友だちに手紙がだせるように、住所録を作っておこう。ついでに、親類や知人の住所録も作ろう。

自分との関係によって分類して作っておく方が便利である。

「二丁目四十五番地」を「二ノ四五」と書いておく場合もある。

地名や人名には、習ったことのない文字があり、これからは覚えなくてもよい文字がある。そういう文字は、それを見ながらまちがいをなく書きうつしていこう。

恩師

長野県北佐久郡三岡村耳取 小林貞治

静岡県賀茂郡仁科村大浜 土屋さとし

親類

千葉県安房郡千倉町寺庭 佐久間新一

東京都中野区昭和通二四五 市村光子

友人

大阪市東区本町二ノ二六 鐘江啓蔵

北海道札幌市北十條西三ノ二 石川行雄

筆順

十二 じょうぶなからだ

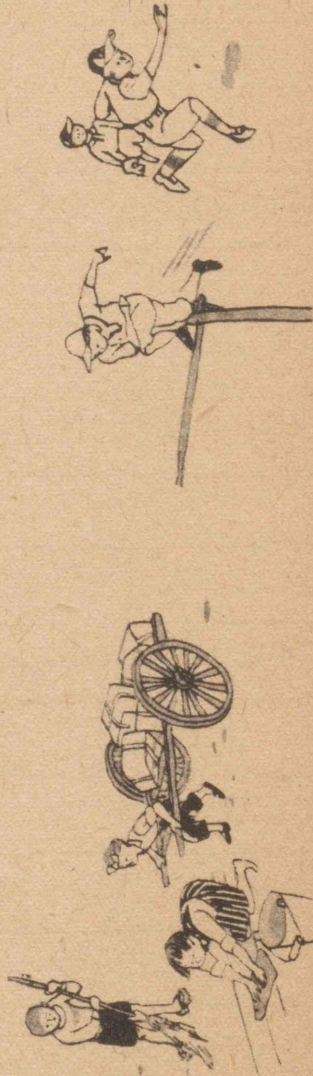
顔 一 二 三 六

皮 一 二

耳 一 二 三

歯 一 二 三 六

身 一 二 三



頭	顔	額	目	鼻	耳	口	齒	舌	首	手	指
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

胃	腸	足	皮	身	毛	血
---	---	---	---	---	---	---

適度の運動、適度の休養。

規則正しく、明るい生活。

よくかんで食べ、よくねむる。

自ら進んでからだをきたえる。

十三 科学の進歩

科学の進歩は機械の発明を促し、機械の進歩は社会組織や政治組織から、人々の思想までも動かした。その著しい例は産業革命である。

産業革命とは、十八世紀から起った生産技術の大変動をいう。最初はイギリスにおこなわれ、ヨーロッパから北アメリカに伝わった。

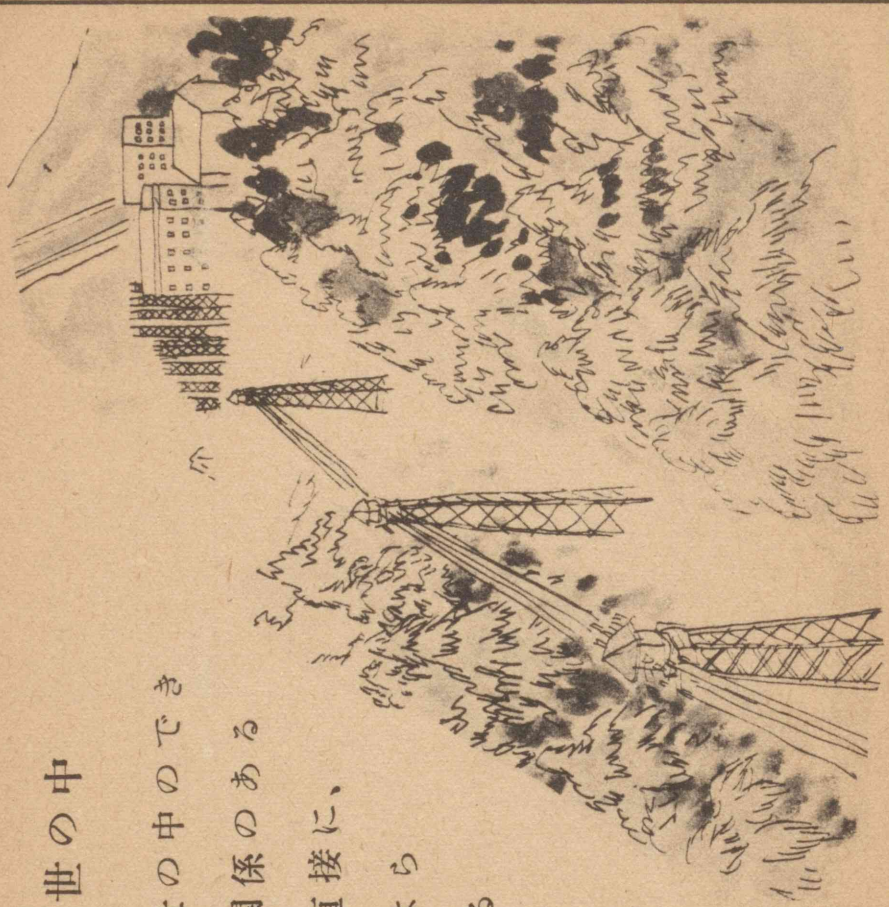
白紙に横書きするときは、行が曲りやすい。だんだん上の方へ曲っていったり、だんだん下の方へ曲っていったりする。用紙の上のへりに注意して、へりと行との間隔を同じに書く。次の行は、上の行との間隔に気をつけていけばよい。

産業革命は機械の発明によつてはじまり、ぼう績工業の面に	
にまず現われた。	
1730 まじくぼう績機(ワイアット)	
1764 多じくぼう績機(ハーグリブズ)	
1769 水車ぼう績機(アークライト)	
1785 カ織機(じゅう気利用)(カートライト)	
1813 鉄製カ織機(ホロックス)	
ワットのじゅう気機関、ダビーの	
よう鉸ら、スチブソンの汽車、	
フルトンの汽船の発明などに	
助けられて進歩をとげた。	

十四 電気の世界の中

世の中にある物、世の中のでき
 事で、それが文化に関係のある
 物事であるかぎり、直接に、
 間接に、電気の力によら
 ないものは一つもある
 まい。

まさに現代は
 電気の世の中
 である。



- 電気の利用
- 1 光 — 電燈、ヘッドライト、えい画、げん灯。
 - 2 熱 — 電熱器、電気アロン、電気ろ。
 - 3 動力 — モーター。
 - 4 通信 — 電信、電話、ラジオ、サイレン。
 - 5 交通 — 電車、エレベーター、電気機関車。
 - 6 その他 — 電波たん知機、電気ちく音機、レントゲン写真。

十五 スポーツ精神

オリンピック

国際の運動競技会をオリンピックという。各国の代表委員によつて国際オリンピック委員会が組織されており、この委員会が主催となつて、どこかの国で、国際オリンピック競技大会を開く。日本がこれに参加したのは、第五回の大会からである。

スポーツ

運動競技をスポーツという。わが国が、国際オリンピック大会に参加するようになり、外国との往来がはげしくなるにつれ、いままでわが国ではおこなわれていなかった競技が多くとりいれられるようになった。それで、運動とか、競走とか、競技とよぶよりも、スポーツとよばれることが多くなつたのである。

オリンピック精神の最もたいせつな
 ことは、勝つか負けるかいつまで
 はかくて、どうすればりばに戦つて
 ができるかといふところにあるのである。
 ふか考によつて、私どもは勇んで
 確固たる人生を送らうと信ずると
 信ずる。ふか考は、スポーツのみに限
 らず、世の中のすべてのことについて
 いわれる。

十六 くちびるに歌をもて

(歌の書きかた)

1. 全体の字くばりに氣をつける。
2. 行が曲らないように、紙のへりとの間隔に注意して書く。
3. 行の頭をそろえて書く。行の頭をそろえるには、行の頭と紙の上のへりとの間隔に注意する。
4. 行と行との間が同じになるように書く。
5. 最後まで、氣をゆるめないうで同じ調子で書く。
6. 行の頭をそろえないで、変化をつけることもある。そのときは、その変化をつけながら頭をそろえる。
7. 書く調子を、文の意味に従つてかえることもある。たとえば、強い心持の表われているところは、強い感じの文字で書き、やさしい気持の表われているところは、やさしい感じの文字で書く。このときは、調子が変わるけれども、全体が変化しながらまとまっているようにする。

くちびるに歌をもて、
 ぼろろかな調子で。
 日日の苦勞に、
 ゆし心配がたるとも、
 くちびるに歌をもて。
 そうすりや、なごむがさうと
 平氣どやないか。
 どんなきびる日だて、
 そしが元氣にしるる。

十七 美術の秋

秋には運動がさかんにおこなわれます。

秋には音楽会が多く開かれます。

秋には美術の展覧会が、ひつきりなしに開かれます。

秋は読書によい時期です。

秋はとりいれでいそがしい時です。

秋は 運動の秋です。

音楽の秋です。

読書の秋です。

みのりの秋です。

そしてまた

美術の秋です。

秋には、書道の展覧会も開かれます。

日展の第五科は書道の部です。日展とは、日本藝術院が開く日本美術展覧会のことです。

文字は、筆でかくと、いろいろな美しさがよく表われます。筆で書いた文字の美しさにも気をつけ、すきなところは、硬筆の文字にとり入れましょう。

文字の美しと

強く、勇ましい美しと。

やさしく、まろやかな美しと。

上品で、けだかい美しと。

ひょうきんでおもしろい美しと。

新鮮な美しと。

おもしろい味のある美しと。

調和のよい美しと。

十八 漢字の組み立て(二)

イ	いんげん	ア	まだれ
ル	いんぼう	弓	ゆみへん
リ	りどう	イ	ぎよんご
シ	さんざい	オ	へん
火	ひへん	文	ぶんぼう
口	くちへん	方	かたへん
口	くにかまえ	日	ひへん
土	つちへん	日	ひらび
女	おんなへん	木	きへん
ハ	うかんむり	欠	あぐび

他	働健。	元	先兒。	列	判別。
味	唱鳴。	国	固園。	地	境増。
妹	始婦。	守	寒寒。	底	府広。
引	張強。	役	徳待。	招	拾推。
救	放。	旅	族。	昭	晴。
書	最。	欲	歌。	活	満。
				燈	焼。

十九 漢字の組み立て (二)

川	れんが	貝	こがい
牛	うしへん	車	くるまへん
王	たまへん	之	しんにょう
石	いしへん	冫	おがぎと
糸	しめすへん	冫	こぎとへん
禾	のぎへん	金	かねへん
竹	たけがんまり	門	もんがまえ
糸	いとへん	隹	ふるとり
女	おがかんまり	雨	あめがかり
月	にくづき	頁	おががひ
艹	くさかんまり	食	しょくへん
言	ごんごん	馬	うまへん

照	熱。	牧	物。	球	理。	破	研。
祝	礼。	程	種。	第	築。	級	線。
老	考。	肥	脈。	苦	著。	設	謝。
貸	貸。	輕	輪。	遠	週。	郡	都。
銅	鏡。	開	間。	院	陽。	集	難。
雲	電。	預	頭。	飯	館。	驗	駟。

二十 図表の中の文字

社会科や理科の学習で、図表を書くことがたびたびある。図表の中へ書き入れる文字は、その目的によつて、いろいろにかえて書く。たとえば、見出しの文字を大きく書いたり、字数の少ない文句は字間をあけ、字数の多い文句は字間をつめて書く。また横書きと縦書きをまぜることもある。

筆 順

飛	て、く、て、
普	ソ、リ、ツ、ク、ニ
動	ウ、ニ、ク、
戸	コ、ノ
便	イ、ロ、ニ、ノ

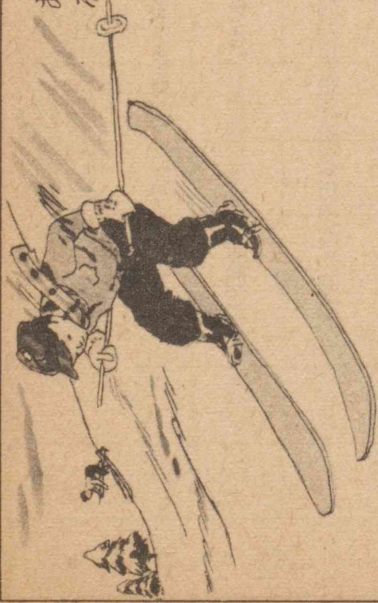
交通のはやさの進歩 (毎時)km	
江戸時代	早かご 6
明治時代	早ひぎやく 6.5
	ゆう便夫 7.5
	人力車 9.5
現 代	馬 車 11.5
	自 動 車 48
	普通列車 50
	急行列車 68.5
飛行機 300	

二十一 戸外の楽しみ

スケート

氷すべりをスケートと
いう。

わが国では、明治二十
三年ごろから行われ始め
た。げたスケートは、わ
が国でも古くから行われ
ていたが、鉄製のスケ
ートをつけることは、外国
からはいつてきたもので
ある。



スキー

雪すべりをスキーとい
う。木製の長い運動具を
足につけて、雪の上をす
べるのである。

明治三十七年ごろに外
国からはいつてきたスポ
ーツである。

戸外の楽しみ

一、しも柱をふみくたきながら山へ
行き、たきぎをとって帰る
楽しみ。

二、スキーやスケートに熱中し、
雪や氷の上にながら、しゃつ
一枚で、あせを流す楽しみ。

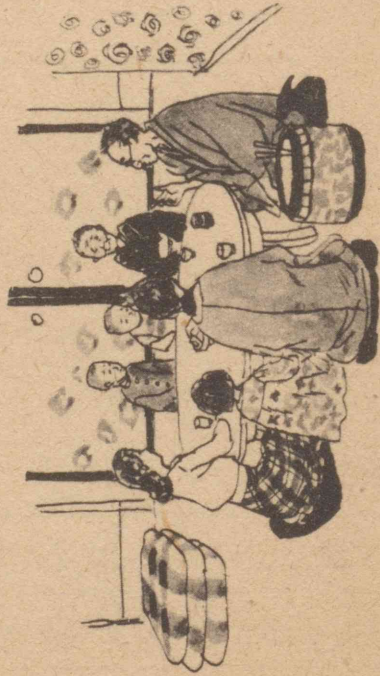
三、外一面の銀世界、雪がみんな
ちやうだたらと話し笑つ楽しみ。

二十二 室内の楽しみ

楽しみにもいろいろあります。楽しかったこと、
楽しそうなことをあげてみましょう。

苦しみもいろいろあります。苦しかったこと、
苦しそうなことをあげてみましょう。

楽しみと苦しみとは、どんな関係がありますか。



室内の楽しみ

- 一、父といっしょにわらわい、初め
てぞうりを造る楽しみ。
- 二、こたつにあたりながら、おじい
さんおばあさんから昔話をきく
楽しみ。
- 三、友だち大ぜい集って、かるた
遊びやトランプ遊びに、笑い
たがやくその楽しみ。

二十三年の始め

わが国には、昔から、書初めといつて年のはじめに筆をとつて字を書くことがおこなわれてきた。

毛筆で、字の美しさをおもにねらつて書くこともよいし、硬筆で、文の意味をおもにねらつて書くこともよい。

次のページの練習は、年の初めに、覚悟を美しく書く用意である。文の意味も、字の美しさも、役にたてよう。

もつとやさしい文を行書で書いてもよい。

「一年の計は元日にあり」ということわざがある。新しい年をむかえて、なんとなく新しい気分がする。この清新な心持で年頭の覚悟をかため、新しい一年の計画を立てるのは意義あることである。豊かな経験を通して、生きた知識と実行力を体得していきたい。それが祖国復興への最も近い道だと思う。

二十四 日本国憲法

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行爲によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

○国政の権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。

○われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有するにことを確認する。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。

これは、日本国憲法の前文のぬき書きである。これをみて、早く美しく正しく書けるように練習しよう。そして手本を見ないで書いてみよう。

○習わない漢字のところに、かな文字で書いてよい。

国政の権威は国民に由来し、その権力は
国民の代表者がこれを行使し、その福
利は国民がこれを享受する。

二十五 郷土の偉人

どの町にも、どの村にも、人々から尊敬されている人があるものです。その人が、尊敬されるのはどういうわけでしょう。

まず調査をして、事実を明らかにし、その次には、したがきをして文をみがきましよう。そして、自分のすきな書風で清書しましよう。

できあがったら、友だちとみせあつて、たがいに批評しあいましよう。

二十六 俳句と和歌

俳句や和歌を書くときには、とくに文字のつながり(連綿)・大小・変化に気をつけて書くことが大切である。

短冊や色紙には毛筆で書かれるのが普通である。字配りや、文字の変化が硬筆とどうちがうか、よく見よう。短冊や色紙に書くときには、にこりをうたないことがある。自分のすきな俳句や和歌を、硬筆でできるだけ美しく書いて、勉強するへやの壁にはっておこう。

その水一枚の
影もあそびかす

あそび夜の月影清み森となす
まゝあふねれの高きひき見ゆ

照る月の 屋根に
位置 かりけん うりし
鳥がの 影ぞくがらぬ

上のように色紙に書かれたのを、散らし書きという。字のつながりや大小や変化のほかに、色紙全体に字をどう配るかが大切である。

照る月の 屋根に
位置かりけん うりし
鳥がの 影ぞくがらぬ

その水
一枚の影も
あそびかす

あそび夜の月影
清み森をがらすまゝ
あふねれの高きひき見ゆ

二十七 長い詩

次の詩を美しく書いてみよう。

いろいろに変えて書きためしてみて、どれが一番よいか。比較して研究しよう。

少年たちよ、

少女たちよ。

顔よごすとも、わするるな、

明かるくすめる

ながえ顔。

つつれ着るとも、失うな、

やさしく清き

なが心。

一ばんよいと思う書きぶりで、次のページに書きなさい。

この文がすきだったら、また別の紙に書いて、自分の勉強する部屋にはっておきましょう。

二十八 脚本

謝恩会の余興にやる劇の脚本をつくろう。

1. 六年間の思い出の劇化。
2. 希望していることの劇化。
3. 物語の劇化。

くつゆくえ 森清一作

第一まく

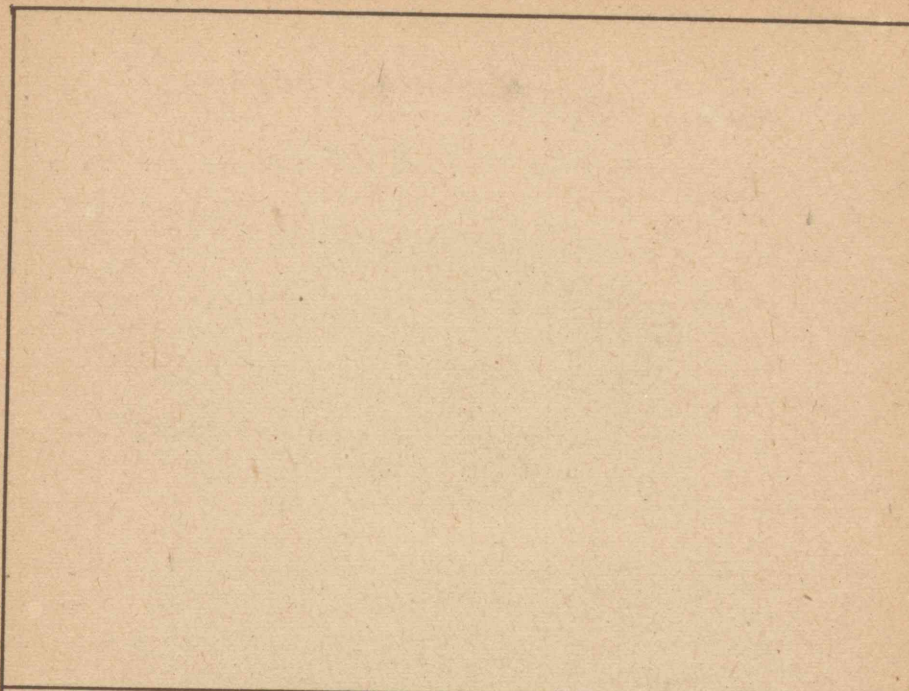
「子供の町」の広場。ぶ台上手にオルガンがあり、まわりに七八の子供がいる。歌に合わせてまくあく。英がかりけて出てくる。

英「先生大変です。建治君が池の中に落ち……」

先生(まぢやう)「なに 池の中、一体どうしたのです。」

二十九 卒業

在	校	生	諸	君	の	健	康	を	祈	る。
い	よ	深	め	広	め	て	い	き	た	い。
	高	い	理	想	を	も	つ	て		い
究	な	ど	の	豊	か	な	経	験		
	自	治	生	活	・	自	学	・	自	由
出	の	数	々							
運	動	会	・	音	楽	会	な	ど	の	思
	学	芸	会	・	遠	足	・	校	外	学
め	て	い	る	よ	う	で	あ	る		
し	て	学	窓	を	集	立	つ	日	を	見
増	し		私	た	ち	の	前	途	を	祝
へ	て		そ	の	大	き	さ	も	太	さ
	記	念	の	木	も	六	年	の	月	日
た	日	か	ら	満	六	ヶ	年			
手	を	ひ	か	れ	て	校	門	を	く	ぐ
セ	ル	を	気	に	し	な	が	ら		母
		体	に	は	大	き	す	ぎ	る	ラ
										ン
										ド



卒業の歌

(一) あおげはおとしわが師の恩
教るめにわにもほやくとせ
思ふばいつらふ年月
今こそ別れめいぞとらば。

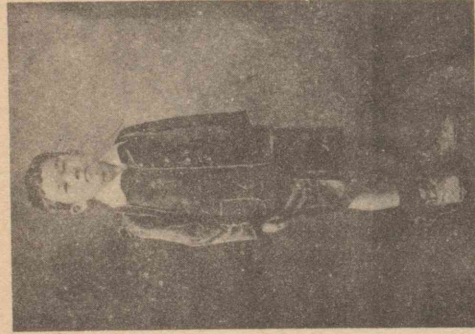
(二) たがいにむつみし日頃の恩
別るものらにもやよ忘るな
身を立て名をおげやよげぬ
今こそ別れめいぞとらば。

三 アلبム

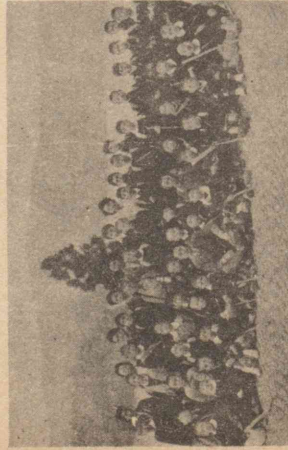
自分の写真を整理して、アルバムをつくらう。
アルバムに説明をくふうしてつけよう。



満才。たん
じょう目に写
す。お、すんだ
ほが、清らか
だ。

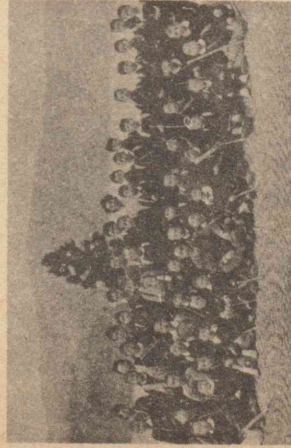
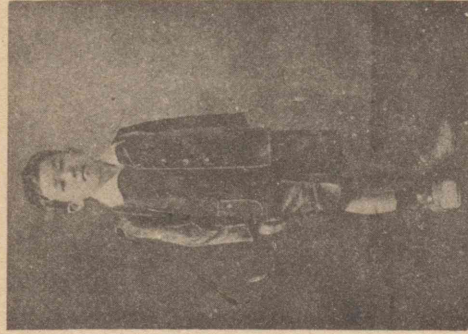


母に手をひかいて、
くぐった校門。
さくらの花が散り
かけていた。散り
ランドセルが歩いて
いるみたいと笑わ
れたのもその頃で
ある。



学年遠足。箱根、あしの湖
で写す。
さかさ富士の姿だと、外輪山の
線が美しく、湖の水はあく
まで静かだった。
思い出は、楽しい。

すきな書風、すきな形式で書いてみよう。(それ
がよくわからない者は、まえのページと同じに
書いてもよい。)



10
春陽
小国 634

昭和二十五年 月 日 印刷
昭和二十五年 月 日 発行

小学 書き方(六年)

総頁 六四頁
定價 円

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE)

著者 西 脇 吳 石
代表者

東京都中央区日本橋通三丁目八番地

発行者 株式会社 春 陽 堂

代表者 和 田 欣 之 介

東京都板橋区志村町五番地

印刷者 凸版印刷株式会社

代表者 原 喜 平

東京都中央区日本橋通三丁目八番地

発行所 株式会社 春 陽 堂

電話日本橋〇〇五一・四八四八
振替東京一六一七番

本書の著作にあつた人

東京学芸大学教官	西 脇 吳 石
同	栗 原 静 一
同	巖 場 一 雄
同	木 島 孝
同	武 藤 重 治
同	龜 岬 嘉 子
表紙	倉 田 三 郎
挿絵	石 井 明 雄

広島大学図書

0130449959

